

自らを律し、自ら主体的に、生涯にわたり学び続ける子ども

健康にして豊かな情操を持ち、想像力とたくましい実践力を身につけた人間(児童)の育成 『考える子・おもいやりのある子・やりぬく子』
自分で考える児童の育成

豊かな心・健やかな体の現状
本市の7つの約束の観点からみると、昨年度は、朝ごはんの喫食率と、自ら課題解決に向けて取り組む児童の割合が、堺市の平均より高かった。しかし反面、家族との対話が減少し、スマホやゲームを1日1時間以上触っている児童が増えていることに課題がみられる。学力調査の結果からは、国語科では、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」に課題が見られた。算数科では、「思考・判断・表現」を用いた領域において平均を大きく下回った。昨年度と同様に、データや資料を読み取る学習を意識的に行うことと、文章記述で表現する学習をさらに充実して取り組んでいく。『自ら学ぶ力』を高めるため、校内研修のテーマを「自分の考えを持ち、表現できる児童の育成」と設定し、取り組んでいる。

Table with 10 columns: 大項目, 中項目, 具体目標, 具体的な取組, 判断基準, 評価方法, 評価時期, 進捗確認, 達成状況(年度末), 自己評価, 学校関係者評価. Rows include categories like '基礎学力の向上', '豊かな心・健やかな体', '心の教育の充実', '体力の向上', '地域協働'.

校長より(年度末)
年度当初に立てた計画をほぼ達成することができた。児童は、健やかに成長していると考えられる。昨年、ICTの普及やSNSの進化により、子どもを取り巻く環境は急速に変化していき、今の時代を生きる児童が生き抜いていく力をつけていることが学校教育に求められている。本校でも児童用タブレットを活用し、「児童同士がつながり、学び合う思考を深める授業づくり」に取り組んでいる。それと同時に豊かな心や優しい心を育てることを大切にしている。また、家庭と連携して子どもを育てる必要性を感じている。今後ますます変化する社会において、小学校の教育活動に必要なことを適切にとらえ、学校教育を充実していくことを今後も継続して行ってきたい。

学校関係者評価から(年度末)
学校は子どもたちの健やかな児童の育成を教育活動の根幹において、教育をさせていただいている。そのなかで、社会が多様化し、子どもが多様化している世の中で、学校教育の在り方も変化している。今後ますます多様化する学校の中で、どのように児童の育成を行うのか考えていく必要がある。また、家庭と連携して進めたいと健やかな成長が難しい側面がある。豊かな心や優しい心を育てて、これからの社会の担い手を育てていきたい。